

# 敦賀2号機 審査再中断

## 規制委 原電の資料不備で

原子力規制委員会は五日、日本原子力発電敦賀原発2号機（敦賀市）の再稼働に向けた審査を再び中断する方針を決めた。審査申請書の一部を補正し、八月末までに提出し直すよう行政指導する。原電が審査資料の誤記などを繰り返して、改善しないため。約二年間中断した審査が昨年十二月に再開したばかりだった。異例の事態で、近く原電の村松衛社長らと会談して意思を確認する。▶関連⑤面

### 「補正後に最終判断」

敦賀原発を巡っては、規制断層を将来動く可能性が審査の調査団が二〇一三ある「活断層」と指摘。原年、2号機原子炉直下にお一帯は一五年に再稼働の審査

を申請し、審査で反論を続けてきた。活断層を否定できなければ廃炉の可能性もあるが、先行きは全く見通せない。山中伸介委員長は五日の記者会見で、原電に

審査申請書を補正させた上で、審査を継続するか最終判断するとの認識を示した。改善が見られず不備が見つかれば、再稼働を不許可とする可能性も示唆した。「基本的に最後の判断。補正書で許可、不許可の判断をする」と述べた。また「書類をチェックする体制ができておらず、原電の社長のマネジメントが働

2013年5月	トラブルの調査で運転停止
13年5月	原子力規制委員会の有識者調査団が2号機直下の断層は「活断層」だとする報告書をまとめる
13年11月	日本原子力発電が再稼働に向けた審査を申請
14年	原電の審査資料で1000カ所以上に記載不備
20年2月	地質の資料で無断書き換えが発覚
10月	審査が事実上の中断状態に
12年10月	規制委審査の中断を正式決定
12年10月	規制委が原電の再発防止策を確認し、審査再開を決定
12月	再開後初の会合で、原電が資料の157カ所で誤りを報告
13年	原電が審査資料のさらに8カ所で誤りを報告
13年3月	規制委が再稼働審査を再び中断し、行政指導で審査申請書の一部補正を求める方針を決定

### 敦賀原発2号機を巡る経緯

審査では一九九年、断層調査に関する資料で千カ所以上の記載不備が見つかった。二〇一二年二月には地質データの無断書き換えが判明。審査は約二年間中断したが、再開後の二〇一二年十二月と今年三月にも地層の観察場所を間違えるなど訂正していない」と指摘した。審査では一九九年、断層調査に関する資料で千カ所以上の記載不備が見つかった。二〇一二年二月には地質データの無断書き換えが判明。審査は約二年間中断したが、再開後の二〇一二年十二月と今年三月にも地層の観察場所を間違えるなど訂正

敦賀原発 日本原子力発電が敦賀市に所有する原発。一九七〇年に大阪万博への送電で注目された1号機（沸騰水型、35万7千kw）は現在、廃炉作業中。2号機（加圧水型、116万kw）は八七年二月に営業運転を開始。発電した電気は中部、北陸、関西の電力各社に送るが、二〇一一年五月に手動停止して以降、現在も停止している。建設計画がある3、4号機は敷地造成を完了したが、東日本大震災後に準備工事を中断している。

可能性がある。事業者の権利を阻害する不適切な手続きになるため、慎重に対応方針を判断した。全ての審査をやり直すことにもなり、規制委の負担が大きいとの意見も出た。

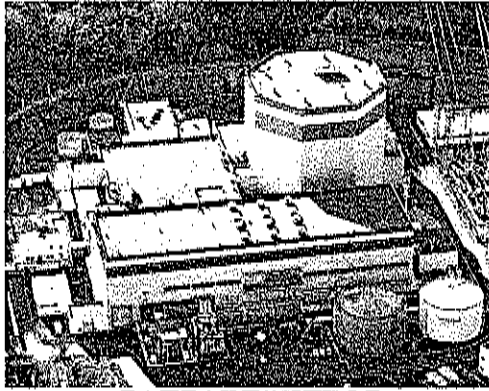
# 原電の敦賀2号機審査再中断

## ミス繰り返り返し問われる資質

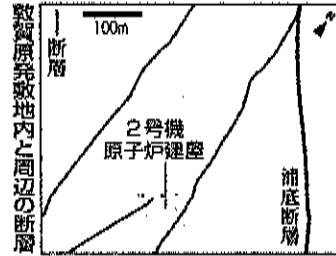
原子力規制委員会は、日本原子力発電敦賀原発2号機（敦賀市）の再稼働審査中断の方針を決めた。原電は敷地内にある断層は活断層ではないと主張するが、提出した資料で誤りを繰り返して、改善できていないためだ。原発事業の電力会社である原電には、再稼働を旨とする関係者に対する選択肢はなく、再稼働を旨とする姿勢を貫くことと見られるが、事業者としての資質を問われかねない状況で、再稼働を取り巻く状況は厳しくなってきた。●面参照

### ▽打ち切り

「果たして活断層を否定できる見通しがあるのか。否定するための証拠探しを続けられたら、いつまでも審査が終わらないのではないか」。五日の規制委定例会で杉山智之委員は、出口が見えない審査の行方に懸念を示した。伴信彦委員は「書類のクオリティ（質）が低いことを理由に審査を打ち切るとはできない」と主張した。



日本原子力発電敦賀原発2号機＝2022年12月、敦賀市で

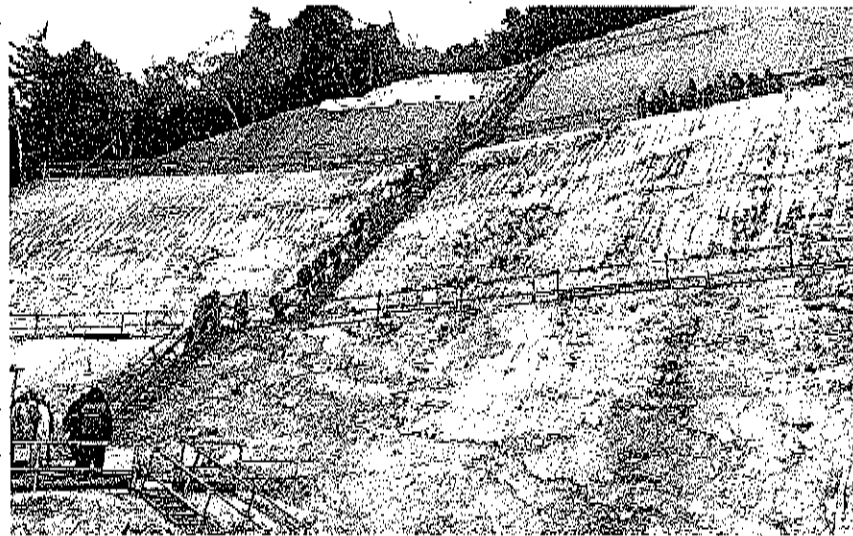


敦賀原発敷地内と周辺の断層

新規制基準では、重要施設の直下に活断層があれば再稼働できない。敦賀2号機から約三百五十メートルに活断層「前庭断層」があり、そこから数分間隔で断層が延びる。規制委の有識者調査団は二〇二三年、原子力直下の断層は活断層と評価した。

### ▽信用できず

それでも原電は再稼働を旨とし、一五年に審査を申請。その後、敷地内の新たなボー



敦賀原発の敷地内の断層を調べる原子力規制委の調査団＝2012年12月、敦賀市で

リングのデータを正確に示して、かつてチークの一部が調査換えられていたことが二〇二二年に発覚。約二年間審査が中断し、再開後にも過去の掘削資料の限りが見つかっていた。

今年三月十七日の審査会合では、観察する地層の場所を間違えたミスが報告された。規制委側が指摘しなければ見つけられなかった。

### ▽業界が支える

原電が所有する原発は敦賀2号機と東海第二原発（茨城

県）だけで、いずれも再稼働のめどは立たない。東北、東京、関西、中部、北陸の電力各社は原電と受電契約を締結。各社は、受け取る電気がゼロでも維持費に相当する「基本料金」を支払っている。原電は停止中でも巨額の維持費や安全対策費がかかる。電力業界が原電を支えている形だが、ある電力会社の関係者は「原電が原発を動かす見通しが立たないまま、多額の金を出し続けている状態はよくない。このまま原発を稼働させられないなら、原電の存在意義が問われる」と指摘する。

### 規制委の判断尊重

松野官房長官

松野第一官房長官は五日の記者会見で、原子力規制委員会が日本原子力発電敦賀原発2号機の再稼働に向けた審査を中断させる方針を決めたことに関し、規制委の判断を尊重する考えを示した。再稼働時期については「予断を持って申し上げることは差し控える」と述べるにとどめた。

### 重く受け止める

日本原子力発電のコメント。原子力規制委員会での議論を重く受け止め、真摯に対応していく。規制委の再稼働をおかけしていること、地域、関係者の皆さまに心配をおかけしていること、深くおわび申し上げる。